

# いすゞ



第86号

2015年 12月  
日本野鳥の会三重  
<http://miebird.org/>

## 自然エネルギーへの警鐘

津市 平井正志

五主の宝、曾原大池の南半分ソーラー設置工事が続いている。ツルシギやセイタカシギ、オオハシシギなど貴重な鳥達で、あれほどにぎわっていた池が。

近年のソーラーパネル設置はおびただしい。高価格での電力買い取り、税金の軽減措置これだけ優遇すればだれでも余った土地を持っている者は飛びつくだらう。たとえ、葦の生い茂る湿地で建物が建てられなくても、また、池でさえも。

しかし、そのような場所はこれまで、高度成長期の開発という名のもとでの自然破壊を免れた場所であり、今では多くの鳥類、魚類、昆虫など生物の貴重な棲家となってきた場所でもある。生物の多様性、とりわけ、平地での生物多様性の維持の大きな役割をはたしてきた場所である。たとえ、それが国立公園や県立公園でなくても、また、小面積であっても。そのような場所が秩序もなく、土地所有者の一存でソーラーパネルに変えられる。

そもそも、自然エネルギーの利用というのは国全体で、計画し進めてきたはずである。どれくらい自然エネルギーを利用しなければならないのか、どれくらい利用可能なものがあるかを調べているはずである。太陽光の場合はどうだろう。日本全土をパネルで覆うという選択はありえない。どれくらい設置すべきか、どれくらいまで設置できるのか、どこに設置できるのか。国の方針が明らかでない。無秩序で設置すればとうぜん貴重な自然を破壊することになる。今の政策では限度を超えた自然破壊が起こりうる。今回問題となる、木曾岬干拓地も、曾原大池も代償の利かない場所と言わざるを得ない。

残念ながら、現段階では国や県、市町村の自然環境担当者も何も動いていないようである。早急にソーラーパネルの設置に対する規制を検討し、行き過ぎたパネル設置を是正すべきである。規制が確立するまでは、種々の手段を講じて貴重な自然が破壊されるのを食い止めるべきである。

## 木の実と鳥達

津市 岡 八智子

狭い我が庭のピラカンサの実が真っ赤になり秋の青空に映える頃になりました。

時々ヒヨドリが偵察にやってきますが未だ食べ頃でないようです。

ツグミが到来すると早速やって来てツグミ・ヒヨドリとムクドリとの三つ巴で騒々しくなって最後はムクドリの団体にあつと言う間に食べ尽くされます。

ナンテン・千両・万両・ウメモドキ・ヤブデマリ・タラヨウ等赤い実の木が競っています。

山ではソヨゴ・シロダモ・アオキ・アズキナシ・ガマズミ・カナクギノキと赤い実が目立ちます。又年を越しても何時までも食べられずに残る赤い実の木が結構あります。

クロガネモチ・イイギリ・そしてタマミズキ等です。  
(次ページへ続く)

=====目	次=====
自然エネルギーへの警鐘-----	2
木の実と鳥達-----	2
表紙の言葉-----	2
鳥の名前と色-----	4
名張で白化個体のツバメ-----	5
第7回くるくる環境フェスタ in ベルファーム」に出展しました！-----	6
シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化—ミュビシギ-----	8
事務局だより-----	10
野鳥記録-----	11
今後の探鳥会予定-----	14
探鳥会報告-----	15
編集後記-----	16
=====	

### 表紙の言葉

平井正志

アオゲラ、時折標識調査で捕獲することがある。手に持つと頑丈な鳥である。丈夫な足、がっしりとした胸、丈夫な尾羽。すべて、木に穴を掘るために必要な体なのであろう。枯れ木ではなく、生きている木に巣を作るのを好むという。三重に多い杉林では見ることは少ない。アオゲラの繁殖できる豊かな森がいつまでもつづいてほしいものである。

※

冬の花の無い時期に素敵な赤い実が楽しませてくれますが、如何して何時までも食べられないのか不思議でグルメな鳥達には後の方のランクなのでしょうか？

知らない内に春までにはどの木も実は残ってないので美味しい順から食べて行くのかなあ～と思います。



我が家のピラカンサ 2015年10月21日



伊勢市のタマミズキ 2011年12月24日



伊勢市のタマミズキ

ヤドリギの実を食べると思っていたヒレンジャク・キレンジャクが数年前ホルトノキの実を食べに街中の街路樹にやってきましたり、ヤブランの実を草地に下りて食べているのを見る事が出来ビックリしました。



岐阜公園のタマミズキ 2012年1月12日

ナンキンハゼ・センダン・エゴノキの白い実も冬目立ちますが何時も知らない間に皆食べられてるようです。木の実には赤・茶・青・黒・白・黄等色々な色があり、鳥達に色の識別があるのか其々食べ頃を知ってるのか不思議が一杯です。

1年毎（例外もあるが・・・）に実るタマミズキは本当に美しい小さな実を沢山付け、この冬は楽しめそうです。鳥が実を食べて糞をする事によってアチコチ分布を広げるのに何故かこの木は局所的に点在しているようです。モチノキ科ですがミズキの様にすくとした樹形で花が咲いた様に見事です。何時頃何の鳥が実を食べ尽くしに来るのか見届けたいと思っています。



## 名張で白化個体のツバメ

名張市 田中豊成

名張市内の知人から 2015 年 9 月 4 日に、白いツバメがいると連絡を受けました。翌日朝から現地に向かい 1 羽を確認しました。そこは、稲刈りが始まろうとしている田んぼで、普通のツバメが 100～200 羽程度、それにコシアカツバメが 30 羽程度、イワツバメも 30 羽程度がおり、稲のすぐ上や上空を飛び交いながら虫を摂っている様子でした。3 種類のツバメいるので、白いツバメはどの種かを判断しなければなりません。尾羽の両側面が短いこと、翼が長く、体型からツバメ幼鳥と判断しました。

ところが、7 日に行ったところなんと 2 羽いるので、ただビックリ仰天しました。1 羽だけでも稀なのに、2 羽ですから奇跡に近い感じがしました。

その後、18 日まで確認できました。



名張の自然好きな方々に教えました。しかし、この時期に生憎稲刈りが始まりましたので、農作業する人たちの邪魔にならないよう、またトラブルにならないように観察は極力控え、他地域の人たちには知らせないように要請をしました。夕方には、名張で 5・6 年前に見つけた罫に 1 羽いる日や 2 羽いる日がありました。

5 年前にも、罫で 1 羽の白化個体ツバメがおり、その時にも大変興奮した記憶があります。残念ながら、翌年の秋にはその罫は、来なかった。今年の 2 羽の白化個体ツバメが来年又訪れてくれると最高なのですが、どうなるのでしょうか。ちなみに、アルビノだと遺伝情報の欠損によりメラニンが欠乏する個体で、瞳孔は毛細管血管の透過により、赤色になります。写真のとおり、目は黒いので白化個体（白変種）としました。



## 第7回くるくる環境フェスタ in ベルファーム」に出展しました！

このイベントは、毎年この時期に松阪農業公園ベルファームが、「環境」を軸にして取り組んでいる企業や団体などと協働で行われています。今年も9月20日(日)・21日(祝/月)の2日間開催され、野鳥の会は21日の1日だけ出展しました。



小さなお子さんを連れた家族客には、いろいろな鳥のスタンプを押したり、布用のクレヨンで描いてつくる「マイバック作り」が人気でした。

また、午前・午後の2回ミニ探鳥会を行い、園内の池にいる水鳥(カイツブリ)などを観察して楽しんでいただきました。

(文：西村 泉)

野外テントでの展示なので、お天気が気がかりでしたが、幸い天候に恵まれ多くの家族連れで賑わいました。ブースは狭いながらも「ベルファームの野鳥たち」のパネルなどを掲示し、体験コーナーとして「マイバックづくり(鳥のスタンプ押し)」「鳥の折り紙」「鳥のぬりえ」などを用意しました。



エノキ



## シギ・チドリ類の年齢・季節による羽衣の変化

### 一連載第2回 ミユビシギー

津市 今井 光昌  
砂浜で引く波と打ち寄せる波に合わせて集団採餌するミユビシギ。その採餌行動から他種との識別は確率高く出来ますが、同じような採餌行動をハマシギもすることがあります。ただ、ハマシギは波の動きに合わせて採餌を何度も繰り返すことはあ

りません。ミユビシギは打ち寄せる波と引く波に対して斜めに走りながら餌を捕食していくので、採餌の行動範囲さえ分かれば待ち伏せして観察できます。ミユビシギは砂質の強い干潟でも見られます。干潟での採餌はハマシギやトウネンと大差はなく、採餌行動から種の識別は出来ません。類似種との最大の違いは後趾がないことですが一つの特徴や行動で種を見分けるには限界があり、羽衣からの識別を意識することが大事です。



図1 幼羽 2009.09.05



図2 第1回冬羽 2012.01.03



図3 成鳥冬羽 2014.10.14

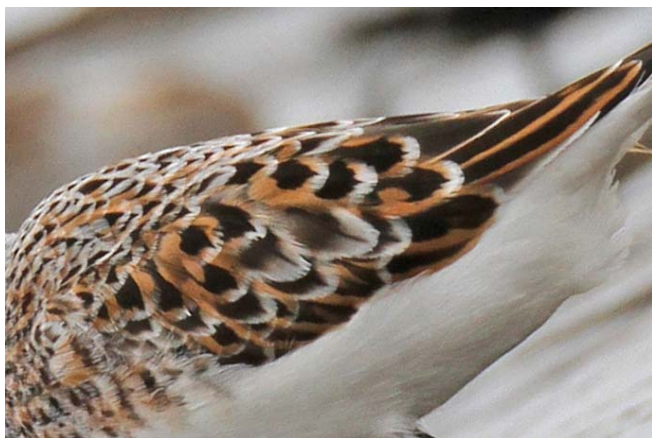


図4 成鳥夏羽 2014.05.12



図5 幼鳥 2009.09.09

肩羽は黒い軸斑と白い斑が目立ちます。雨覆の軸斑は黒褐色で羽縁は太く白い。幼鳥は白と黒のコントラストが強いので成鳥との識別は容易です。



**図6 第1回冬羽に換羽中**

2014.10.14

肩羽の一部に黒褐色の幼羽が残っているが、多くが灰褐色の冬羽に換羽しています。雨覆と三列風切は褐色で太く白い羽縁があり幼羽です。



**図7 第1回冬羽** 2014.10.14

図6で肩羽に残っていた黒褐色の幼羽も冬羽に換羽し、背・肩羽が一様な灰白色になります。雨覆・三列風切に摩耗した幼羽が残っています。



**図8 第1回夏羽** 2009.06.06

6月6日だと言うのに上面に赤褐色の羽がなく頭部から胸の赤味もない。冬羽から夏羽初期のような羽色をしています。小雨覆は激しい摩耗がみられ幼羽と思われます。夏羽への換羽が特に遅い成鳥と言うより不完全な換羽しかできない第1回夏羽個体と考えられます。



**図9 成鳥冬羽** 2013.10.12

冬羽は上面が一様に灰白色になり下面の白味が強い。他のシギと混じって行動していてもより体の白さが際立ちます。大きさが似ているハマシギ冬羽との混群でも白味の強い羽色から両種を見分けられます。ハマシギの上面は褐色味があります。





図10 成鳥冬羽から夏羽に換羽中  
2007.05.12

肩羽に夏羽の黒い羽が出始めています。この後、図 11、図 12 と夏羽への換羽が進んでいきます。

図 11 成鳥冬羽から夏羽に換羽中 2012.04.14

雨覆・三列風切に黒い羽で赤褐色の羽縁がある夏羽が出ています。この後、図 12 のような羽衣に進んでいきます。換羽の進行具合は個体差が大きく、進行していく部位も個体によりばらつきがあります。当個体は肩羽に比べ雨覆・三列風切の換羽が早いです。



図 12 成鳥夏羽 2012.05.10

夏羽は頭部から胸が赤褐色で、上面は赤褐色に黒色の軸斑と白い羽縁がある。赤褐色や黒い斑の入り方に個体差が見られます。ミュビシギは雨覆・三列風切も夏羽に換羽します。類似種ハマシギやトウネンの夏羽は冬羽が残ります

### 最後に

ミュビシギ夏羽とトウネン夏羽は羽衣の個体差が大きく野外でも画像でもよく似て見えることがあります。図 13 はミュビシギで、図 14 はトウネンです。トウネンは白い眉斑があり、ミュビシギの眉斑は弱いのでないように見えます。ミュビシギは頭部から顔の赤褐色部に細かい暗色斑が入るため顔が汚く見えるのに対しトウネンは顔がすっきりして見えます。図 13、図 14 の顔の比較画像では 2 種の違いがよく分かりますがこのような個体ばかりではありません。ミュビシギとトウネンは羽衣の個体差が大きい上に雌雄差もあり識別は注意を要します。この 2 種が並ぶとトウネンは小さいので容易に見分けがつきます。迷ったときは可能な限り後趾の有無を確認しましょう。



図 13

図 14

## 事務局だより

活動の記録(2015年8月～10月)

- 8/8～9 (株)東産業「第12回環境フェア in 四日市大学」出展参加
- 9 会報「しろちどり第85号」発行・発送作業
- 9/21 「第7回くるくる環境フェスタ in ベルファーム」に出展参加
- 9/29 松阪市役所 等 保護問題について資料収集
- 10/20 保護問題で関係者と協議
- 10/24 国交省「川と海のクリーン大作戦」五主海岸清掃に参加(有志)
- 10/24 第2回理事会

## 理事会報告

第2回(2015年10月24日) 三重県総合博物館 出席者11名

### ○木曾岬干拓地南部の利用についての要望書

要望書を修正し、愛知県支部や名古屋鳥類調査会と相談して、三重県知事、愛知県知事などに送る。

### ○五主海岸ボラ池(曾原池)のソーラーパネル設置問題

地主をお願いに行ったが、工事を止めることはできない。

失われるシギ・チドリの飛来地を確保するため、休耕田などの農地に水を入れるようお願いすることを検討する。

今後、同様の問題が他の場所でも起きないように、公益財団法人日本野鳥の会にも訴えながら、環境省・経済産業省・県などに働きかける。

### ○保護すべき場所の扱いについて

五主海岸ボラ池と同じことが起きないように、各地区で保護すべき場所の名前・広さ・所有者・見られる鳥・調査者(担当者)をリストアップして共有する。

### ○来年度の探鳥会計画

通常探鳥会計画(11月中旬頃に依頼予定)以外に県外・宿泊探鳥会を計画。

来年度の計画は北勢地区で担当して計画する。

### ○2015年度ガンカモ調査

### ○野鳥記録

会員以外の報告については、会員の紹介でのみで受け付ける。ただし、会報には非会員の名前は記載せず代理報告者として紹介者名を記載する。

新聞などの記録は、把握出来る範囲でデータとして残す。(いつの何新聞の何版)

### ○研修会(リーダー研修会)について

3月19日・20日を予定 場所は三重県民の森、宿泊場所は湯の山温泉を予定。

ただし、三重県民の森の会場が2ヶ月前にしか予約できないため、他の場所になることもある。

### ○三重の野鳥 チェックリスト(日本産鳥類リスト順) ver.7.1

HPに掲載する。リストに追加する種について。

カワラバト(ドバト)・コジュケイ・クマタカを追加。

### ○三重県の猛禽類の状況について報告

オオタカは三重県では関東のようにたくさん見られるわけではないので、保護すべき種でなくなることはない。鈴鹿山脈のイヌワシの状況について 繁殖がうまくいっていない

### ○高松海岸の状況について報告

今年の春までに橋脚の基礎工事終了し、基礎部分は砂の下に埋められている。今後の工事予定は不明。

## 野鳥記録 (2015年08月17日から2015年10月29日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察月日 (2015年)	観察場所 (三重県)	雄/雌/などの 区別	記録報告者名	脚注
コウノトリ	1	8月21日	桑名市多度町北猪飼	成鳥	*近藤 義孝	1
オオアジサシ	1	7月18日	木曾岬町木曾岬干拓地 木曾川堤防	成鳥	*近藤 義孝	2
アカエリヒレア シシギ	7	8月26日	四日市市鈴鹿川派川河 口海岸部	成鳥・幼鳥 混合	横山 真一	3
アカエリヒレア シシギ	約200	9月10日	明和町北藤原		西村 四郎	4
クロハラアジサシ	3	9月10日	明和町八木戸		西村 四郎	5
カッコウ	1	9月19日	四日市市 垂坂公園・羽 津山緑地	幼鳥	今西 純一	6
ツツドリ	1	9月23日	四日市市 垂坂公園・羽 津山緑地	幼鳥	今西 純一	7
ムギマキ	1	10月20日	いなべ市北勢町	雌	山神 勝治	8
ジョウビタキ	1	10月18日	北勢中央公園	雄	三曾田 明	9
クマタカ	1	10月22日	四日市市水沢町宮妻		金丸 幸吉	10
ムギマキ	1	10月26日	菰野町、三重県民の森	雌	笹間 俊秋	11
アカアシカツオ ドリ	1	10月13日	松阪市松名瀬町がら崎 沖の干潟		*西村 泉	12
アカガシラサギ	1	8月30日	松阪市星合町		*西村 泉	13
ツバメ	2	9月4日	名張市	白化個体 (白変種)	田中豊成	14

### 記録報告者名に\*印は、代理報告者を示す

#### 注

- 1) 近くの家の屋根に停まり、そののち畑に降りてエサを食べていました
- 2) チュウヒの定例調査の時でした。台風の後で、ウミネコ 500羽に混ざっていました
- 3) 7羽そろいの写真は撮れず、写っているのは6羽。
- 4) 水田に200羽ほどが集まっていて壮観でした。あまり人をおそれず、近くまできます
- 5) 台風一過の翌日、海岸近くの水田にいました。まだ夏羽が残っています
- 6) カッコウ幼鳥の特徴である後頸部に白斑があり、喉まで横斑がある事から同定した  
啜っていた毛虫を飲み込んだと思ったらすぐに遠くまで飛んでいきました
- 7) 腹部の横縞が太く、下尾筒の横斑が太く明瞭でツツドリ幼鳥と同定した  
メダカ池の周りを短い距離で飛び回っていました、毛虫を捕って食べる姿を見ました
- 8) 暗い林の中で突然現れた、雄も居ないか探してみたけれど見当たらなかった
- 9) シーズン初認
- 10) 翼標識付きです。添付写真は右肩の赤しか写っていませんが、左肩には白の標識が  
ありますなお、同じ場所で本年3月に右肩のみ青の標識付きのクマタカを見ました
- 11) 定点観測をしていて撮った写真を整理していたら明らかに他のヒタキ類と違いがあ  
りムギマキと判断しました

- 12) 海鳥ハンドブック著者箕輪義隆氏に同定依頼し、アカアシカツオドリと判明、テトラや堤防上で、地面に降りているのは非常に珍しいそうです
- 13) 初列風切換羽中でしたので、幼鳥ではありません
- 14) ツバメ・コシアカツバメ・イワツバメの群れ約 200 羽の中に 2 羽の白化ツバメがいた  
(別記事：5 ページ：参照)



コウノトリ (近藤義孝 代理報告)



オオアジサシ (近藤義孝 代理報告)



アカエリヒレアシシギ (横山真一：撮影) (左)



アカエリヒレアシシギ (西村四郎：撮影) (右)



クロハラアジサシ (西村四郎：撮影)



ムギマキ (山神勝治：撮影)



ジョウビタキ (三曾田 明：撮影)



クマタカ (金丸幸吉：撮影)

クマタカの翼についているマークは環境省の許可を得て、ある研究グループが付けたもので、この記録は当該研究グループに伝えました。



ムギマキ (笹間俊秋：撮影)



アカアシカツオドリ (西村 泉：代理報告)

カッコウ  
(今西純一：撮影) (右)





ツツドリ（今西純一：撮影）（左）

アカガシラサギ（西村 泉：代理報告）



### 今後の探鳥会予定（詳しくは行事案内、ホームページをご覧ください）

- 12月6日（日） ベルファーム探鳥会 開催地／松阪市伊勢寺町 松阪市農業公園ベルファーム  
集合／9：30 ベルファーム 匠の館前
- 12月13日（日） 員弁川探鳥会 開催地／いなべ市員弁町 員弁川周辺  
集合／9：00 県立いなべ総合学園高等学校駐車場
- 12月20日（日） 横山池探鳥会 開催地／津市芸濃町 横山池・安濃ダム  
集合／10：00 津市芸濃文化センター駐車場
- 12月27日（日） 木曾岬干拓地探鳥会 内容は、4月26日と同じです。
- 2016年1月16日（土） 上野森林公園探鳥会 開催地／伊賀市下友生 上野森林公園  
集合／10：00 上野森林公園ビジターコテージ  
備考／参加予約必要 上野森林公園（0595－22－2150）
- 1月17日（日） 銚子川周辺探鳥会 開催地／北牟婁郡紀北町海山区 銚子川  
集合／9：00 道の駅「海山」
- 1月18日（月） ミヤコドリカウント探鳥会 開催地／伊勢湾西岸各地 集合／10：00 各地  
備考／会員のみ 参加予約必要 平井正志（059－268－3072）
- 1月23日（土） 両ヶ池探鳥会 開催地／いなべ市大安町石樽東 両ヶ池公園  
集合／10：00 両ヶ池公園道路脇駐車場
- 1月24日（日） 木曾岬干拓地探鳥会 内容は、4月26日と同じです。
- 1月24日（日） 大淀海岸探鳥会 集合／9：30 大淀小学校前 業平の松公園
- 2月6日（土） オシドリ観察会 開催地／名張市薦原（こもはら） 名張川周辺  
集合／9：00 近鉄名張駅東口（現地まで自家用車乗り合わせ）  
備考／参加予約必要 田中豊成（090－4088－3164）
- 2月7日（日） 木曾三川探鳥会 開催地／桑名市・海津市・愛西市 揖斐川・長良川・木曾川  
集合／9：00 桑名市 多度大社前駐車場付近
- 2月14日（日） 安濃川河口探鳥会 開催地／津市高州町 安濃川河口

- 集合／10：00 安濃川河口右岸先端 東屋
- 2月21日(日) 五十鈴公園探鳥会 開催地／伊勢市 五十鈴公園  
集合／10：00 浦田町バス停
  - 2月28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 内容は、4月26日と同じです。
  - 3月6日(日) 石垣池探鳥会 開催地／鈴鹿市石垣町 石垣池  
集合／10：00 石垣池東側駐車場付近
  - 3月8日(火) 海蔵川探鳥会 内容は、5月12日(火)と同じです。
  - 3月13日(日) 津・偕楽公園探鳥会 開催地／津市広明町 津偕楽公園  
集合／9：30 偕楽公園駐車場
  - 3月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 内容は、4月26日と同じです。
  - 3月27日(日) 篠田山探鳥会 開催地／松阪市久保町 篠田山斎場  
集合／9：30 篠田山 トイレのある大きい駐車場

~~~~~  
探鳥会報告 (2015年9月～10月)

- 海蔵川探鳥会  
2015年9月8日(火) 開催予定でしたが、台風の接近による大雨で中止しました。

- 木曾岬干拓地探鳥会  
2015年9月27日(日) 9：00～12：20  
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地  
共催団体／日本野鳥の会愛知県支部  
近藤義孝 米倉 静 参加者10名(会員4名)  
キジ(3)、マガモ(1)、カルガモ(23)、キジバト(6)、カワウ(50)、アマサギ(1)、アオサギ(10)、ダイサギ(10)、チュウサギ(6)、コサギ(3)、アマツバメ(1)、クサシギ(1)、イソシギ(4)、ミサゴ(6)、トビ(1)、チュウヒ(1)、カワセミ(1)、モズ(5)、ハシボソガラス(15)、ハシブトガラス(20)、ヒバリ(5)、シヨウドウツバメ(5000)、ツバメ(100)、ヒヨドリ(6)、ムクドリ(3)、スズメ(300)、ハクセキレイ(4)、セグロセキレイ(2)、カワラヒワ(80)、ホオジロ(2)、ドバト(100) 計31種

雨上がりの曇り空のもとで開催されました。  
シヨウドウツバメなどたくさんの野鳥が観察されました。種類数は少なかったのですが、アマツバメも見ることができました。木曾岬干拓地では今年生まれたと思われる若鳥も元気にハンティングしていました。

- 伊勢タカ渡り探鳥会  
2015年9月27日(日) 7：00～11：00  
伊勢市 伊勢やすらぎ公園  
高木正文 中西 章 参加者16名(会員13名)  
カルガモ、ミサゴ、オオタカ、ノスリ、サシバ、キジバト、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、ハクセキレイ、サンショウクイ、ヒヨドリ、

モズ、イソヒヨドリ、エゾビタキ、コサメビタキ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計25種  
悪天候のため、渡りは観察できなかつた。今回、7歳と4歳の兄妹の幼いバーダーの参加がありました。「タカ柱」を是非見せたかった。  
子供の参加は非常にうれしいものであった。

- 相津峠タカ渡り探鳥会  
2015年10月3日(土) 8：30～12：30  
松阪市飯南町 相津峠  
西村四郎 中村洋子 参加者10名(会員8名)  
アオバト、トビ、ツミ、サシバ、クマタカ、アオゲラ、ハヤブサ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマアラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、カワラヒワ 計17種  
峠の駐車場に着くと、すぐ上をサシバが舞っていました。タカ柱ができつつ、ツミがサシバにちょっかいをだしていました。なかなか「感謝の丘」まで移動できずに嬉しい思いをしました。

「感謝の丘」まであがると、さっそく遠くにタカ柱が見え、期待が膨らみましたが、こっちへ現れず、別方面へ移動していったみたいです。その後はちらほら遠くを渡っていくサシバが見えましたが、遠い・遠かったです。昼前にはクマタカとハヤブサが飛んでくれましたが、これも遠かったです。  
今日は小鳥があまり飛ばず、退屈な時間が多かったです。  
サシバは約40羽を確認しました。

● 御杖高原牧場タカ渡り探鳥会

2015年10月3日(土) 8:30~12:30

奈良県御杖村 御杖高原牧場

田中豊成 小林達也 参加者9名(会員6名)

キジバト、ハチクマ、トビ、ハイタカ、サシバ、ノスリ、チョウゲンボウ、モズ、ハシブトガラス、ヒガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、コサメビタキ、スズメ、キセキレイ、ホオジロ 計17種

伊賀周辺でのタカ渡り探鳥会で、例年になくサシバ等が非常に数多く見られた。40羽程度のタカ柱は圧巻であった。数度20羽程度のタカ柱も観察できた。次から次にサシバが西へ移動して、時間を忘れるほどであった。参加者全員満足されたし、充実した観察ができた。又、ヒヨドリの渡りも1回見られた。

今回は珍しく反省点はなかった。御杖村は伊賀に隣接しているので、問題はないと思う。

● 鳥羽タカ渡り探鳥会

2015年10月4日(日) 開催予定でしたが、開催地のメガソーラー発電所設置工事により中止しました。

● 市木川及び水田探鳥会

2015年10月4日(日) 9:00~12:00

南牟婁郡御浜町 市木

中井節二 参加者15名(会員6名)

カルガモ、コガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、クイナ、イカルチドリ、タシギ、イソシギ、ミサゴ、トビ、カワセミ、チョウゲンボウ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、コムクドリ、ノビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツメナガセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト 計35種

参加者は15人と、人気のある場所での開催で多人数でしたが、鳥の方は普通種が多かったです。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2015年10月25日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者20名(会員12名)

キジ(1)、オカヨシガモ(30)、ヨシガモ(1)、マガモ(6)、カルガモ(28)、ハシビロガモ(6)、コガモ(170)、カイツブリ(4)、キジバト(2)、カワウ(70)、アオサギ(6)、ダイサギ(2)、チュウサギ(1)、コサギ(1)、ケリ(4)、クサシギ(2)、イソシギ(3)、セグロカモメ(1)、ミサゴ(6)、ノスリ(3)、カワセミ(1)、

チョウゲンボウ(2)、モズ(10)、ハシボソガラス(10)、ハシブトガラス(30)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(10)、ショウドウツバメ(5)、ヒヨドリ(10)、ムクドリ(2)、ジョウビタキ(1)、ノビタキ(3)、スズメ(10)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(8)、セグロセキレイ(5)、タヒバリ(1)、カワラヒワ(4)、ホオジロ(3)、ドバト(17) 計40種

風が強い日で、木曾岬干拓地でチュウヒを観察できませんでした。

冬になると、観察できる種類が増えてきます。



ハジロカイツブリ

編集後記

今回から、ページのシステムを変えた。これまでは表紙は0ページ目としていたが、今回から表紙は1ページ目、ただし、ページ番号は付けない。次の記事のページを2ページ目とした。これの方が理に適うと思う。今回、全体を16ページに押し込めたので、やや窮屈な編集になってしまった。

冬鳥の情報が飛び交っている。特に大型の鳥、ガンやハクチョウ、ツル類は三重に飛来しても、心無いカメラマンに追い回され、飛び去り、越冬することは少ない。残念である。

しろちどり 86号

2015年12月1日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：平井正志

カット：平井正志

編集：平井正志

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志 方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市

森本町野田 3-1



